

西中学校だより



一本の樹

校訓 しなやかに すこやかに

令和6年11月29日
第8号
上尾市立西中学校長
宮田 純生

義務教育について

校長 宮田 純生

今から10年位前に、京都の宇治上神社に次のような貼り紙があると話題になりました。貼り紙の内容は、

ここは神社です。

皆様が心を静めてお参りをされる場所です。

テーマパークでもファミリーレストランでもありません。

サービス業ではないのです。

「お客様は神様」の自論は通用しません。

本当の神様は目の前においでです。

当然、不敬な行動は叱ります。

親御さんがお子様をしっかり御監督なさってください。

お子様を叱るのは、親の責任ですし、

親が不行き届きで、周りの人に叱っていただいたなら、逆切れではなく、「ありがとうございます」です。

自分本位な考えの大人にならないように、正しい教育で共にお子様の健やかな成長を見守りましょう。



これを書いた神職は、「世界遺産になってから参拝者も増えています。そんな中、私たちが子どもを注意すると、逆にその親から苦情を言われるケースが増えてきたためです。他の参拝者のためにも、守っていただきたい一般的なことを書きました。」と答えています。

当時この貼り紙については様々な意見がありましたが、私は、校長として初めての年であったので、自分の生徒は「きちんとマナーを守っているのだろうか」、「大人になった時に子どもに責任を持つことのできる親になるように育てているのだろうか」と考えました。

義務教育は、将来、人として生活する上で必要な基礎・基本を教える場だと考えています。つまり、義務教育を卒業した時点で、「社会人として一人前の人間になっていなければならない」ということです。

数年ぶりにこの記事を見ましたが、今、思い返してもこの文書の内容を見ると改めて学校の役割を痛感するとともに、保護者、地域の方々と協力して子どもを育て、地域で生きる人材を育てていかなければならないという責任を改めて強く感じました。

西中学校では、今後とも職員力を結集し、未来への飛躍を実現できる子どもたちを育てて参ります。

いよいよ12月を迎え、令和6年のまとめの時期となります。保護者、地域の方々のお力をお借りしながら、西中学校の生徒の頑張りが見られた1年間でした。

令和7年も引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

一人一人が様々なことを尊重（相手を尊重する）するそんな気持ちが重要なのではないのでしょうか。尊重すれば、人の嫌がることはできないはずです。